

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 769 事業名 第二特別展開催事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
事項		第二特別展開催事業	

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実	○	総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	和歌山に関して地元に着目したテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を構成することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を夏季(7月～11月)に、公開日数30日程度で設定し、展示資料を原則的に和歌山市内及び周辺から借用して展覧会を構成する。なお、和歌山市立博物館条例第4条に基づき、特別展開催中は入館料を改定する。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		昭和20年和歌山は戦災で焼け野原となるが、人々の努力により次第に復興していく。この展覧会では戦後和歌山が歩んできた軌跡を追い、懸命に生きた人々の姿を写真資料で紹介する。本展覧会は市制120周年記念事業である。	近年和歌山県内では、東北系の土偶が発見された川辺遺跡、縄文晩期の人骨が多数発見された鳴神貝塚など注目すべき事例が増えつつある。それらの調査状況を紹介しながら、自然環境の中で縄文人がどのような生活をしていたかを明らかにし、和歌山の縄文時代の実像に迫る。	川端龍子の各時代に描いた代表的な作品を展示するとともに、10回にわたる龍子賞展大賞受賞作品を一堂に展示する。また、不遇時代の挿絵画家時代の作品も展示し、和歌山出身の偉大な日本画家川端龍子の生涯をたどる。	江戸時代の外科医華岡青洲を題材に「華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂」を開催する。	

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	3,240	2,025	4,500	4,236	8,138	4,948	5,761		8,138	
伸び率 (%)	-	-	38.9%		80.8%		-29.2%		41.3%	
人件費	常勤職員	5,968	7,447	7,447	5,883	5,883	5,897	5,897	5,883	
	非常勤職員	0	0	0	0	0	797	797	0	
小計	5,968	7,447	7,447	5,883	5,883	6,694	6,694	5,883		
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	904	1,259	1,000	1,000	1,000	373	500		1,000	
一般財源(税等)	2,336	766	3,500	3,236	7,138	4,575	5,261		7,138	
所要人数	常勤職員	0.78	0.97	0.97	0.78	0.97	0.78	0.78	0.97	
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0.22	0.22	0	

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	第二特別展開催日数					年度目標値	44	44	44	44
						実績値	44	50	38	
	単位	日	全体目標値	44	全体目標達成度	100.0%	113.6%	86.3%		
			年度目標値		実績値					
			年度別達成度							
成果指標	第二特別展入館者数					年度目標値	2200	2200	2200	2200
						実績値	4696	2001	2837	
	単位	人	全体目標値	2200	全体目標達成度	213.5%	91.0%	128.9%		
			年度目標値		実績値					
			年度別達成度							
全体目標値		全体目標達成度								
年度別達成度										

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) B 1
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	日本画会を代表する画人である川端龍子が本市の出身であることや、本市に愛着を持ち様々な施設等に絵画を寄贈されている事実が今回の特別展覧会を開催することにより、一部の市民ではあるが、注目され、この展覧会を機に本市出身の先人の偉業に興味を持っていただくよい機会となったと考える。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	アンケート調査等により、市民のニーズをとらえ、展覧会テーマの設定に反映させる。